



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2024年5月31日

6月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

「おかげさまで」が、地球を回す力になればいいのに。」(伊藤忠商事)

こんなキャッチコピーのCMを見たことがありますか。BGMは宇多田ヒカルさんの「Electricity」です。伊藤忠商事は、企業理念として「三方よし」を掲げ、持続的な地球への商いをテーマにしているのだそうです。ホームページには「次の世代には「希望」を語れるように、次の世代からは「おかげさまで」と言われるように選択をしていかなければならない、この先の世界・地球を考える時にその選択が地球を回していく力になれば、という願いを込めました。」とあります。

この「地球」を「浜之郷」に読み替えてみたらどうでしょう。



5月10日に第1回校外委員会が開かれました。校外委員会は浜之郷小学校では唯一の保護者と学校が協力して活動する委員会です。子どもたちが毎日通う通学路の安全を時期に応じて見守っていただくと同時に、推進協のパトロール、拡大下校指導などを通して危険箇所を地区ごとに確認していただき、学校が提出する市役所、警察などに対する改善要望の基礎となる資料を集めていただくお仕事をいただいています。

こちらは、5月21日の「おはなしのまど」の読み聞かせです。およそ月1回のペースで中休みにランチルームで子どもたちに紙芝居やお話を読んでくれます。低学年だけでなく、6年生も郷の子級の子たちもこの時間が大好きです。カーペットにぺったり座って間近で食い入るように見ている子どもたちもいれば、後ろの座席で隣の子とニコニコ小声で話しながら見ている子もいます。何より現役の保護者の方も含めお母さんたちが直接語りかけてくれる読み聞かせは本当にうれしそうです。



こちらは、5月17日のプラザ総会です。放課後の子どもの居場所として毎日開催してくださっている市内でも数少ないプラザです。学校と連携することで、事前登録や参加カードがなくても自由にいつでも参加できる環境がとてありがたいです。今年は、プラザのイベントもたくさん企画してくださっている最中です。

5月18日に行われた郷小学区青少年育成推進協議会(推進協)の会議の様子です。推進協は自治会や市からの補助を予算とし、地域における子どもたちの健全育成を目的に活動をしてくださっている団体です。具体的には春の交通安全教室を市役所と協力しながら運営、地域パトロールや秋の子ども大会「郷の子フェスティバル」の企画運営をしてくださっています。



どの活動も浜之郷の子どもたちを支えてくださっています。「おかげさまで」という感謝の気持ちを忘れずになりたいと思います。そして、「できる人が できるときに できることを」ボランティアの気持ちを持ち続けたいと思います。おはなしのまど、プラザ、推進協ともに、一緒に活動し、くださる仲間を募集中です。興味のある方は、学校までご連絡ください。